

令和6年度 第5学年 授業改善推進プラン

	伸ばしたい力(児童の実態、学習状況、指導の実態より)	改善プラン(課題の改善プラン、具体的手立て)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の文章構成を理解し、要点や要旨をまとめたりする。 ・自分の意見をまとめて、相手に伝わるように発表したり、聞いたりする。 ・文章の中で既習の漢字を使いこなす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>要点をまとめる活動を多く取り入れること</u>によって、定着を図る。書くことに苦手意識のある児童については<u>ヒントを出したり、ラインを引かせたり</u>する。<u>児童同士で学び合う時間</u>を確保するなど個別指導していく。 ・発表原稿の作成では、どのように書き進めていくかの見通しがもてるよう、<u>参考となる資料を提示</u>する。また、伝わりやすい文章にしていくための<u>定型文を作成し、活用</u>する。 ・<u>定期的に小テストを行うこと</u>で、漢字の定着を確認する機会を増やす。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・知識として必要な用語の定着。 ・単元(小単元)の終末場面で、それまでに調べて分かった社会的事象を関連付けたり、総合させたりして考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習得する必要がある<u>用語や語句をリストアップ</u>し、授業の始めに意図的に指導する。 ・授業の終末で<u>振り返り活動を取り入れ</u>、学んだことを整理し、今までの学びや日常生活との関連につなげていくことができるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識や技能の定着。 ・既習事項を活用して応用問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間を活用し、「<u>東京ベーシック・ドリル</u>」を用いて個に応じた技能の習熟を図る。 ・児童が主体的に考えたいくなるような課題設定や導入場面の工夫をし、意欲的に取り組めるようにする。(教科書付属のデジタルコンテンツや具体物を効果的に活用する。) ・応用的な問題に取り組む際、<u>根拠や考え方の理解に時間をかけて授業を展開</u>していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科における問題解決学習の流れ(学習課題→予想→実験・観察→結果→考察)を身に付ける。 ・考察時、結果をふまえて自分の考えを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察をより深いものにするため、<u>実験の結果からどのようなことが考えられるかを</u>、児童の意見をまとめながら深めていけるようにする。 ・常に学習課題を意識させ、「<u>何のために実験・観察をしているのか</u>」を問いかけるようにする。様子を観察し、段々とその問いかけを減らしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・自然で無理のない歌い方で、のびのびと声を出して歌う。歌詞に込められた意味を考え、自分の思いをもって合唱する。 ・<u>範奏を聴いたり楽譜を見たりして演奏する技能を身に付け</u>、合奏することを楽しむ。 ・<u>お互いの音を聴き合い</u>、思いや意図をもって表現する。 ・鑑賞では、曲や演奏のよさなどを見だし、味わって聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸や発音の仕方に気を付けて歌う声かけをするとともに、<u>お互いの表現の良さを認め合える雰囲気づくりを心掛ける</u>。歌詞に込められた思いや曲の構成を考えるなどして歌い方の工夫をしていく。 ・器楽では<u>範奏を示すとともに、個に応じた指導</u>を行い演奏する技能を身に付けさせる。 ・<u>即興的に表現する活動等を通して</u>お互いの音を聴き合ったり重ねたりする楽しさを味わう。 ・鑑賞では、「<u>共通事項</u>」をもとに、<u>聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表現し</u>、友達と意見の交流をしていく。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学習課題を自分なりに受け止め、主題を思いつくことができる指導を充実する。 ・お互いの作品を認め合ったり、影響を受け合ったりする。 ・自分が気付いた面白さや美しさに自信をもって作品に表せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品作りを目的としない<u>造形遊びの活動を多く取り入れ</u>、試行錯誤を繰り返すこと、失敗を生かしたりする経験や、偶然性の良さを感ずることを積み重ね、自分の表し方や感じ方に自信を付ける。 ・<u>ICTを生かした鑑賞の活動を多く取り入れ</u>、お互いの考え方や表し方の違いを認め合うことを通し、自分の活動に自信をもたせる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに助言したり励まし合ったりする。 ・前向きに体育の学習に取り組む。 ・<u>勝敗や課題を受け入れ</u>、自分の課題解決に向けて粘り強く努力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に<u>十分な準備運動</u>を行う。運動強度を調節し、適宜休憩を入れるなど、無理のないよう、慎重に行う。 ・<u>積極的に外遊びを推奨</u>するなど、運動の楽しさを感じさせたり、運動の日常化を図ったりする。 ・技能の指導を重視するのではなく、<u>友達との関わり合いや体を動かす心地よさにも着目</u>させ、運動をすることに対して、より前向きに考えられるように授業の中で<u>言葉掛け</u>を行う。 ・ワークシートやタブレット端末を活用し、自分や友達の動きや良さを振り返る時間を設ける。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて行うことに興味・関心をもつ。 ・意欲的に技能を習得する。 ・学習したことを生活の場面に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に理解できるように<u>拡大教材や映像教材</u>を使用する。 ・実践的・体験的な活動を通して、<u>達成感を得させること</u>で、実生活に生かそうとする見通しをもてるようにする。 ・<u>学んだことを家庭でも実践</u>できるように、宿題等を工夫する。

外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組む。 ・難しい表現や音声が流れても、諦めないで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話やチャンツ、交流活動を多く取り入れ、学習に積極的に取り組めるようにする。 ・知識や技能の習得に加え、<u>関わり合いを深めていく言語活動</u>を取り入れ、楽しく英語を学ぶ環境づくりを行っていく。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をもつ。友達の見解から考えようとする姿勢をもつ。 ・自分の思いや考えを言葉にして表現したり、発表したりする。 ・自分に振り返って考える活動に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な見解を引き出すことができる教材を用いたり、それぞれの価値観を認め合えるよう、<u>話し合い活動</u>を取り入れたりする。 ・<u>振り返り活動</u>を行い、児童一人一人が学習のねらいについて、自分自身と向き合う時間を確保する。